

被爆2世の体験伝える

県二世の会が初の「聞く会」

被爆者を親に持つ人たちでつくる県被爆二世の会（8団体）は10日、長崎市の県勤労福祉会館で会長の丸尾育朗さん（73）＝諫早市＝を証言者に「被爆二世の体験を聞く会」を開いた。1979年結成の同会で、初の取り組みという。丸尾さんの膀胱がん再発を受けて「いま聞いておきたい」と企画。丸尾さんは、自宅からオンラインで出席し会場に語りかけた。

闘病中の丸尾会長証言

丸尾さんは母親が被爆者で、1947年に長崎市で生まれた。「被爆2世」としてものの20年12月に再発という言葉を知ったのは遅く、職場で労働組合の役員になった30代の頃。報道などで、2世が白血病で亡くなっているの聞いたが「自分は大丈夫としか思っていなかった」。一方で、核兵器廃絶のために必要と感じ、被爆者運動に関わっていったという。

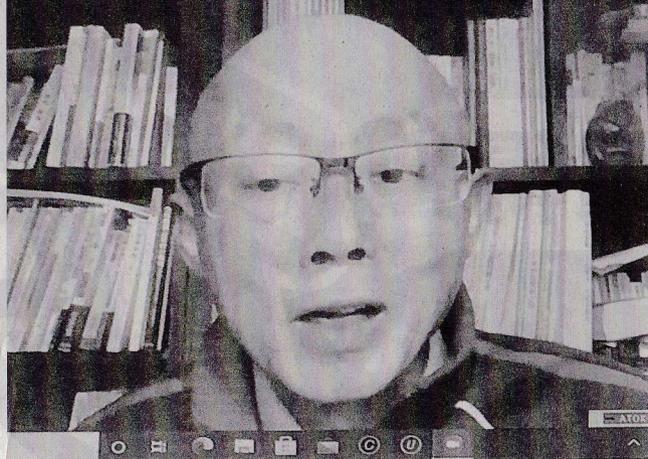
18年、自分にも膀胱がんが見つかった。手術は成功し「治療不能の宣告」。余命1年を、抗がん剤でどれだけ引き延ばせるか…。54歳あった体重は41kgにまで落ち、下痢などの副作用とも闘う。「この体験も踏まえ、放射線被ばくの影響や、核も戦争もない世界を訴え続けたい」

いま、心が向かうのは、原告の一人として加わる。2000年ごろ、身近な被爆2世が相次ぎ50代で世を去った。「原爆放射線の影響は2世にも及んでいる」。実感として迫ってきた。12年には同期の同僚だった男性が膀胱がん死して去。母やいとこと同じだった。書を出した」と明かした。

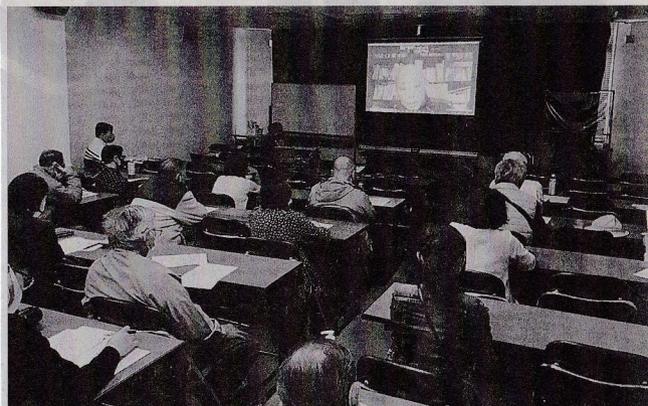
の影響を国が認めていないことをどう思うか」などの質問が相次いだ。二世の会は、核廃絶や二世、三世への被爆者援護法の適用を求めて活動し、丸尾さんは02年から会長を務める。事務局長の崎山昇さん（62）は「2世の体験を聞き、残すことでこれからの活動につなげたい」と話し、今後体験を聞く会を開いていきたいという。

（相本倫子）

あまき
ナガサキ



スクリーンの中で体験を語る丸尾育朗さん



オンラインで開かれた被爆二世の体験を聞く会